

令和8年度埼玉県木造建築技術アドバイザー制度

ー木造建築技術及び木材の情報に関する専門家が支援しますー



【背景】なぜ今、公共建築物の木造化・木質化が必要なのか？

- ▲ 脱炭素社会の実現（2050年カーボンニュートラルへの貢献）
- ▲ 地方創生の推進（地元産材の利用による地域経済の活性化）
- ▲ 都市（まち）の木造化推進法（地方自治体の責務）
- ▲ 埼玉県県産木材利用促進条例（市町村の役割）



写真：板戸保育園

【お悩み】自治体の担当者様、こんな課題ありませんか？

- ▲ 「施設の木造、木質化、何から手をつければいい？」
- ▲ 「建替えの予定があるが、木造化できるのか知りたい」
- ▲ 「木造施設は安くできるの…、維持管理は…、耐用年数は…」
- ▲ 「県産木材を使いたいが、どうやって調達すればいいのか分からない…」



埼玉県マスコット「コバトン」

【活用】そんなお悩みを埼玉県が認定した木造建築技術アドバイザーがサポートします！

【メリット】専門的知見による課題解決支援

- ▲ 木造建築や県産木材の情報に精通した専門家が、技術的な課題の解決をサポートします
- ▲ コストとリスクの低減
基本計画・基本設計の早い段階から専門家の助言を受けることで、木造化に関する課題を事前に整理し、コスト増加や県産木材の調達難などのリスクを抑えます
- ▲ スムーズな合意形成
庁内各課等への説明に必要な「技術的根拠」や「先進事例」の情報提供を行い、円滑な事業推進を支援します

埼玉県木造建築技術アドバイザー制度の概要

1 埼玉県木造建築技術アドバイザー制度とは？

埼玉県が実施する制度で、木造建築や県産木材の活用に関する専門家が計画・設計段階から技術的な助言を行い、市町村や民間事業者が取り組む公共施設等の木造化・木質化を支援するものです。

木造建築技術アドバイザー（令和 8 年 6 月 10 日現在 21 名）

相談内容	専門技術区分	登録人数
県産木材の調達に関する相談	○原木供給 ○製材供給 ○プレカット加工	10 名
木造建築の設計・施工・メンテナンスに関する相談	○設計・監理 (意匠)(構造)(防耐火)(施工・メンテナンス)	8 名
課題や相談事項が明確でない段階での相談	○総合マネジメント (どのような専門技術が必要かアドバイス)	1 名
行政の発注者の立場からの相談	○その他 (市町村・森林行政・コンサルタント)	2 名

2 支援内容は？

企画から、計画、設計、施工の各段階の課題解決のため、埼玉県木造建築アドバイザーによる電話・メール相談の対応や、希望に応じてアドバイザーを派遣します。

- 相談例
- 公共施設新築や改修にあたり、木造・木質化が可能か
 - 耐火・準耐火建築物に木材は使えるのか
 - 地元の木材をどうやって調達したらいいのか
 - 木造と RC 造や S 造の比較をしたい
 - 相談内容が具体化していないため、課題の整理から支援してほしい



埼玉県マスコット「コバトン」

3 アドバイスの費用は？

アドバイザーの派遣費用は無料です。

4 アドバイザー制度の対象建築物は？

	公共建築物・公用建築物 公共性が高い民間の建築物	埼玉県と木材利用促進協定を 締結した民間事業者の建築物 ※
市町村等	○	—
民間事業者	○	○
建築士・施工業者等	○	○
具体例	学校、社会福祉施設（老人ホーム、保育所、福祉ホーム、放課後児童クラブ等）、病院・診療所、運動施設（体育館、水泳場等）、社会教育施設（図書館、公民館、青年の家等）、公営住宅等の建築物のほか、市町村等の事務・事業又は職員の住居の用に供される庁舎、公務員宿舍等、公共交通機関の旅客施設及び高速道路の休憩所（併設される商業施設を除く。）の建築物等	ホテル・旅館、デパート・マーケット・コンビニエンスストア等の小売店舗、飲食店・喫茶店、理髪店・美容院、銀行・保険・不動産取引業を営む店舗、劇場・映画館・演芸場、公会堂・集会場等

※脱炭素社会の実現に資するための建築物等における木材の利用の促進に関する法律
第 15 条に定める建築物木材利用促進制度による。

アドバイザー制度のご利用方法・手続きの流れ

1. 事前相談

事業の構想段階等でも構いません。まずはお気軽に埼玉県森づくり課までお電話またはメールでご連絡ください。

2. 申請書の提出（手続きは簡単）

所定の「申込書」に必要事項をご記入の上、埼玉県または派遣等業務受託者へご提出ください。

（※申請書はホームページからダウンロードできます）

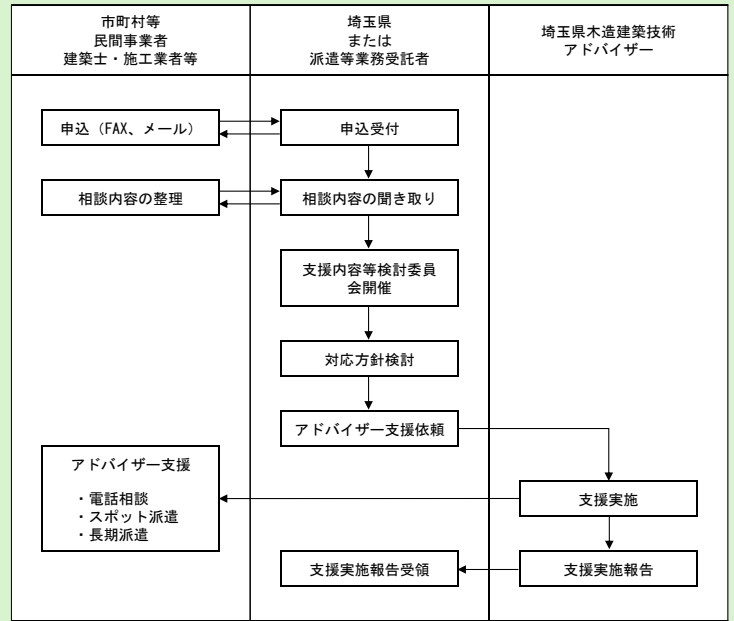
3. アドバイザーの選定・マッチング

ご相談内容に応じて、最適な専門家を選定・コーディネートします。

4. 派遣の実施・アドバイス

現地またはオンライン等にてアドバイザーが具体的な助言を行います。（※複数回の派遣も可能です）

アドバイザー派遣手続きの流れ



アドバイザーの派遣事例

町内の森の木で庁舎の建て替え

相談 町産材を使用して庁舎の建て替えを進めたいと考えています。設計の発注方法、材工分離による木材調達等の注意点、防火・耐震・建設コスト等の技術支援や利用可能な助成制度について教えてください。



長期派遣 伐採予定地の視察、プロポーザル方式設計発注の事例報告、設計段階からの木材調達の調整方法、材工分離発注の事例報告など複数回の相談を通じて設計業務の発注前に必要な実務の知見を提供しました。

SDGs教育と学校施設の木造化

相談 地域の森の保全活動を授業に取り入れています。地域内で木材調達の連携体制づくり、地域材を確実に入手するための発注方法、木造に関する省エネ技術について教えてください。



長期派遣 県内の素材生産、製材、乾燥、プレカット等の現状に関する情報を提供、木材情報の収集への同行、省エネ建築技術に関する知見の提供など複数回の相談を通じて実務の知見を提供しました。

小学校地域拠点施設の木材調達について

相談 小学校地域拠点施設における、県産木材の調達のための推進体制づくり、材工分離発注について教えてください。



長期派遣 設計段階における設計者と木材生産者の情報交換の進め方、材工分離発注の必要性、注意点、補助金や工程表についてのアドバイスや各種資料を提供しました。

建築課職員向けアドバイザー制度説明会の開催

相談 建築課職員向けに埼玉県木造建築技術アドバイザー制度の説明と県産材を使用した木造建築の事例を紹介してほしい。



スポット派遣 同制度の支援内容、派遣費用、対象建築物、申込手続き、派遣事例、派遣アドバイザーの専門技術分野、県産木材活用事例及び埼玉県森づくり課からの情報提供を行いました。

木造・木質化の懸念に関すること

2 (2) 建築物における木材利用拡大に向けた主な課題と対応 ⑨ 中大規模の木造建築コストについて

- 木造建築物は躯体が軽量になることから基礎工事のコスト面で優位性を発揮。平屋から3階建ての中大規模建築物のみならず、中高層のビルでも、木造の方が他構造より低コストとなる事例が見られる。

■ 平屋建て大型店舗（ドラッグストア）

- 木造の方が鉄骨造より**16%低コスト** ※躯体・基礎工事

	木造	S造	木/S
計	57,800円/m ²	68,897円/m ²	0.84
躯体工事 (基礎以外)	22,328円/m ²	24,834円/m ²	0.90
基礎工事 (基礎・地盤改良)	35,472円/m ²	44,063円/m ²	0.81

岐阜県が公表している「非住宅施設の木造化にかかる低コストマニュアル・事例集」（令和4年3月）を元に林野庁が作成
※実際に建設された鉄骨造平屋建て1158m²のドラッグストアについて、木造に置き換えて設計した場合の躯体工事費のコストを比較したもの
※躯体工事の費用であり、内装、仕上げ等の工事費は含まれていない

■ 2階建て小学校

- 木造の方が鉄筋コンクリート造より**9%低コスト**

	木造	R C造	木/R C
計	119,195円/m ²	131,391円/m ²	0.91
躯体・その他 工事	106,271円/m ²	100,390円/m ²	1.06
杭・地盤改良等 (仮設・土工込)	12,924円/m ²	31,001円/m ²	0.42

木造公共建築物誘導経費支援事業報告書（H30 木を活かす建築推進協議会）の「木造勾配天井の場合
※実在する鉄筋コンクリート造（RC造）の2階建て小学校について、木造に置き換えた場合の構造設計・積算を行い、m²単価のコストを比較

■ 3階建て集合住宅

- 木造の方が鉄筋コンクリート造より**3%低コスト**

	木造	R C造	木/R C
計	241,523円/m ²	248,876円/m ²	0.97
躯体・その他工事 (内装工事含む)	222,169円/m ²	197,187円/m ²	1.13
基礎工事	19,354円/m ²	51,689円/m ²	0.37

（公財）日本住宅・木材技術センターが令和7年3月31日に公表した「C L T実証事業の事例に関するコスト分析報告」を元に林野庁が作成
※実際に建設した3階建ての木造集合住宅（377.5m²：CLTパネル工法）について、同一プランで鉄筋コンクリート造とした場合の積算を行い、コストを比較

■ 8階建てビルでも木造が低コストな事例も

- 木造が鉄骨鉄筋コンクリート造の約**3/4**

- ✓ 住宅用として製材、加工された一般流通材など、普及している資材を活用することで、低コストを実現
- ✓ 建築費は坪単価145万円、構造体を木のあらわして活用



※2025年4月時点

株式会社AQ Group Webサイトより引用

24

※木造建築物はライフサイクルコストでも、RC造やS造と比較して低コストになる事例が見られます。
－出展：林野庁ホームページ 建築分野への木材利用の動向及び最近のトピックスより－

内装木質化の懸念を解消する

1 木質化した建物は火に弱いのでは？

以前は木造が火に弱いというのが常識でしたが、現在は全く状況が異なります。理由の第一は、建物単体だけでなく街全体として防耐火性能を高めるようになってきているからです。第2は、建築基準法に性能規定の制度が導入され、木造の防耐火の技術開発も進んで、木造・RC造・S造にかかわらず同じ防耐火性能を達成できるようになっています。木造の良さをどう見せるかという設計者の工夫と発注者の想いなどを考慮して燃えにくい大型木造建築をつくる手法は増えています。

2 木は腐りやすいのでは？

木は水と紫外線に弱いという弱点がありますが、設計上の工夫によりカバーすることが可能です。底のない雨が当たる外壁は木の使用を避ける必要がありますが、建物内部も台所、トイレ、手洗い場などの水回り、湯気の出る湯沸かし室、建物北側の日当たりの悪い箇所などで常に湿気のあるところでは、木を現しでは使用しないようにすることで、木の腐朽を防ぐことが可能です。

3 木質化した建物は維持管理が大変では？

木造・非木造にかかわらず維持管理費は必要です。木造と非木造で維持管理コストのかかり方の違いがあり、木造は初期段階で維持管理コストが発生しやすいという特徴があります。木材は当初5年間の吸湿能力などが高いという特徴があり、この時期に再塗装などを適正に実施することで、20年後、30年後の補修費を大きく節減することが可能です。

4 木質化した建物は建築費が高いのでは？

「建築コストが高いのでは」というハードルを乗り越えて木質化を進めるといえる意思が実際のプロジェクトでは重要です。クロス張りなどと比較して、羽目板を張ると建築費は上がりますが、心地良さ・落ち着き感を高める効果やリラクセス・癒しの効果など、クロス張り等では得られない高い効果を期待することができます。ヒノキよりスギのほうが安価に入手可能です。無節と節ありでは単価が大きく違います。また、特注の寸法の木材を希望すると価格は跳ね上がります。一般に流通している寸法の木材を選定して使うことでコストを下げることが可能です。

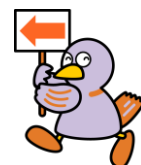
【制度所管・問合せ先】

埼玉県 農林部 森づくり課 木材利用推進・林業支援担当
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1
TEL: 048-830-4318 FAX: 048-830-4839
E-mail: a4300-11@pref.saitama.lg.jp

【事務局】

一般社団法人埼玉建築士会
〒336-0031 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 4-1-7 5F
TEL: 048-861-8221 FAX: 048-864-8706
E-mail: LED06041@nifty.ne.jp

Web サイトから申請書がダウンロードできます



コバトン

詳細は埼玉県サイトをご覧ください

URL: <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0905/mokuado.html>